

国語 (その一)

第一問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

^A『赤い鳥』は大正七(一九一八)年から昭和一一(一九三六)年まで続いたが、昭和四、五(一九二九、三〇)年の休刊をはさんで前期と後期に分けられる。筆者はかつて前期『赤い鳥』に描かれた〈子ども〉のイメージ(あるいは童話的世界のイメージ)を分析し、大別して「良い子」「弱い子」「純粋な子」という三つの基本的なイメージに整理した。もちろん、これらは相互排他的なカテゴリーではなく、基本イメージが重なり合って複合的なタイプを形成している場合のほうが多い。「良い子」や「純粋な子」は児童文学においては定番ながら、そこには『赤い鳥』特有の性格が見られる。また、「弱い子」が多く登場するのも『赤い鳥』の顕著な特徴である。

子どもの読み物にはたくさんの「良い子」たちが登場するが、『赤い鳥』の「良い子」たちの性質は、ほぼ同時期の人気児童雑誌『少年倶楽部』の「良い子」たちと比較すると、明白な違いが見られる。『少年倶楽部』は、少年たちの理想として「偉大なる人」となることを掲げ、「一生を通じて、その児童を鞭撻^{べんたつ}するところの心棒を形造る」(本書の編集方針)ことを目指した。佐藤忠男は、それを「立身・英雄主義」と呼んだ。佐藤によれば『少年倶楽部』は、この「立身・英雄主義」を「子どもたちが主体的にかかわりあってゆける観念」として提供することによって彼らの自我形成に積極的な役割を果たし、熱狂的に受け入れられた。その点、「いつまでも今の童心を大切に」としか語ってくれない『赤い鳥』の童話は、少年時代の佐藤にはなんの感銘も与えなかったという(『少年の理想主義』)。

しかし、こうした立身・英雄主義の称揚は、その後の時代の流れのなかで結局、軍国主義に向かつて一直線に進んでいくことになる。『少年倶楽部』の理想主義は、「個人の野心追求と国家の興隆との幸福な予定調和」(見田宗介)に立脚しており、したがって国家の枠をこえてゆく普遍主義的な方向性を持ち得なかった。他方、『赤い鳥』では、たとえば平等主義やコスモポリタニズムなど、より普遍主義的で状況超越的な価値観を受け入れる「良い子」たちが描かれる(有島生馬の「大将の子と巡査の子」や江口千代の「世界同盟」など)。とはいえ、その種の理想の実現に向かつて積極的に行動する「良い子」は、『赤い鳥』では少数派である。「二房の葡萄」^{ふどう}(有島武郎)^{たけお}などに見られるように、行動よりもむしろ内面の問題が重視され、素直さ、優しさ、思いやり、反省する態度といった内面的属性における「良い子」が多数を占める。『少年倶楽部』の「良い子」がいわば「行動する良い子」であるのと対照的である。

『赤い鳥』の際立った特徴のひとつは、^B弱さへの感受性がたいへん強いことである。たと

国語 (その二)

えば、貧困家庭の子どもや孤児、病気の子や心の弱い子、不当に虐待される子など、さまざまな種類の「弱い子」が頻繁に登場し、主人公のもつ何らかの弱さや弱者の悲哀が中心テーマとなる作品が多い。

「弱い子」のイメージは、しばしばセンチメンタリズムと結びつくが、それはいわば時代の好みでもあった。大正期日本は対外的には列強の仲間入りを果たし、国内では明治期近代化の一応の達成を見たこともあって、人びとの関心は「内面」や私生活の充実へと向かい、宗教ブームや消費生活の発展が生じた。しかし「大正デモクラシー」や華やかな消費生活の裏には、理想主義的運動の挫折や失敗があり、噴出する資本主義の矛盾になす術もなかった暗い世相もあった。「カチューシャの唄」に始まる当時の流行歌の系譜にふれて、鶴見俊輔は、これによって「日本人の感情処理の『イ』」が形成されたと述べているが、少し解釈を広げるなら、流行歌に限らず、弱さを前面に押し出したセンチメンタルな小説(たとえば『赤い鳥』)にも多くの童話を書いている当時の流行作家、吉田紘二郎の作品)なども含めて、一般に大正期の文化は感傷を好み、それが人びとの感情を慰藉する「『イ』」ともなっていたといえよう。

もちろん『赤い鳥』の「弱い子」たち皆が過剰な感傷性をもって描かれたわけではない。弱者に寄り添い、その過酷な現実を描き出したり、弱さのなかに強者には望めない独自の価値を見出そうとする作品なども少なくはなかった。

弱者を描き、その弱さを通してある種の理想主義を表現することに成功したのは、小川未明である。『赤い鳥』作品の「黒い人と赤い橋」や彼の代表作「赤い蠟燭と人魚」(『東京朝日新聞』一九二二)では、見殺しにされた人びとの恨み、売られた人魚の悲しみが、激しい復讐の正義となつて現れ、とつぜん舟が沈んだり、町全体が滅んでしまったりする。未明は、弱者の不幸は弱者を生み出す社会構造の問題であると考えて社会主義思想に近づいたが、その詩人的資質から、階級闘争による社会変革の物語よりはむしろ、神秘的・超越的な力による「詩的正義」の実現によって無辜の者の不幸が償われるという物語を通して、自らの理想を表現した。

児童文学に限らず、純粋さは近代文学に現れる子どもの代表的なキャラクターといえる。『赤い鳥』にもたくさん「純粋な子」が登場する。なかには実際には考えにくいほど極端に純粋な子もいる。彼／彼女たちは、いわば「純粋さ」そのものを象徴する存在なのだ。では「純粋な子」「良い子」「弱い子」のイメージをひとつに結び合わせるもの、あるいはそれらの共通の基盤になっているものは何なのか。それはやはり「無垢」の観念であろう。当時の作家や詩人たちは「子供の時の心」「永遠の子供」、あるいは「童心」といった言葉で

国語 (その三)

それを表した。大正一〇（一九二一）年の『早稲田文学』六月号の特集「童話及童話劇^{おとび}についての感想」で、小川未明はこう書いている。

子供の時の心程^{ほど}、自由に翼を伸ばすものは他にありません。また汚されてゐないものもありません。少年時代程^{ほど}、率直に美しいものを見て、美しいと思ひ、悲しい事実^おに遇うて悲しく感じ、正義の一事に対して感憤を発するものは、他にはないのです。……私は、「童話」なるものを独り子供^{ひと}のためのもとは限らない。そして、子供の心を失はない、すべての人類^{むか}に向つての文学であると主張するものです。（私が「童話」を書く時の心持^{もち}）

のちにプロレタリア文化運動で活躍する秋田雨雀^{うじやく}も『赤い鳥』に童話を寄せているが、同じ特集のなかで次のように述べている。

X

（芸術表現としての童話）

彼らのまなざしが向けられるのは「子供の心を失はない、すべての人類」「人類の持つてゐる『永遠の子供』といった理念的・抽象的な存在であつた。そのため後代の「児童文学」から「子ども不在の童心主義文学」と批判されることにもなるのだが、童話が「芸術表現」として深い意義を担う理由もまたそこにあつた。

「子どもの心」Ⅱ「童心」を最も率直に称^{たた}えたのは、『赤い鳥』で童謡面を担当した詩人の北原白秋である。彼は現実の子供たちの生き生きとした姿を捉えた点でいわゆる「童心主義」作家と一線を画すが、白秋にとつてもまた、童心こそ、人間がもつべき最も重要な価値であつた。童心礼讃^{さん}に満ちあふれた童謡論『緑の触角』で、彼は「児童は成人の父である」というワーズワースの詩句を引きながら「いかなる成人たりとも畢竟^{ひつきよう}は本性としての童心を失ひ得るものではない。それ故にこそ人間の尊さはあるであらう」と述べている。

（河原和枝「鈴木三重吉・『赤い鳥』と童心主義」による）

※ 問題作成上の都合で、原文の一部に手を加えてあります。

国語 (その四)

問一 傍線部 A 「『赤い鳥』とあるが、『赤い鳥』に登場する「良い子」たちは、どのような「良い子」たちなのか。その説明を行った次の文の空欄に入るように、五十字以内(句読点なども字数を含む)で答えなさい。

「良い子」たち。

問二 傍線部 B 「弱さへの感受性がたいへん強い」とあるが、『赤い鳥』はなぜ弱さを描こうとしたのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 大正期の日本では、近代化を達成し、階級闘争による社会変革の気運が非常に盛り上がっていたから。
- ② 大正期の日本では、人々は物事に感じやすく、文化により感情を慰めようとする面を持っていたから。
- ③ 大正期の日本では、理想主義的運動の挫折や失敗があったことで、宗教ブームが起こっていたから。
- ④ 大正期の日本では、弱さと強さの価値が逆転していたために、弱さの中に強さを見出していたから。
- ⑤ 大正期の日本では、人々は弱さに悲哀を見るのではなく、強者にはない独自の価値を求めているから。

問三 傍線部 C 「センチメンタリズム」とあるが、これはどういう意味か。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問四 空欄イに入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 金字塔
- ② 羅針盤
- ③ 処方箋
- ④ 合言葉
- ⑤ 御題目^お

国語 (その五)

問五 傍線部D『無垢』の観念」とあるが、当時の作家や詩人たちがこの観念を描こうとしたのはなぜか。その説明を行った次の文の空欄に入れるのに最も適切な部分を、本文中から十八字で抜き出して答えなさい。

から。

問六 Xに入る、次のア～エの四つの文の正しい並べ方として最も適切なものを、後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ア その時の大人の魂と、子供の魂とは決して差別的ではありません。
- イ ……童話は大人が児童に与へるために創作すべきものではなく、人類の持つてゐる「永遠の子供」のために創作さるべきものであると思ひます。
- ウ 童話の中に現^{あら}はされた思想とその世界は、大人の理想の世界であると見ることも出来ます。
- エ そしてその世界に於^{おい}てのみ子供と大人が「一つのもの」になり得るのです。

- ① イ→ア→エ→ウ ② イ→エ→ウ→ア ③ ウ→ア→エ→イ
- ④ ウ→イ→ア→エ ⑤ ウ→エ→ア→イ

問七 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 子どもの読み物には、さまざまな〈子ども〉のイメージが描かれているものの、そのイメージは紋切り型である。
- ② 「一房の葡萄」を書いた有島武郎は、理想の実現に向けて積極的に行動を起こした、大正期の児童文学者であった。
- ③ 『赤い鳥』では、「良い子」「弱い子」「純粋な子」のいずれかをテーマとして物語を創作しなくてはならなかった。
- ④ プロレタリア文化運動のなかで、小川未明は、弱者を生み出す社会構造の問題を解決することに成功していた。
- ⑤ 理念的ではなく現実の子どもたちの生き生きした姿を捉えた北原白秋は、童心主義の作家とは少し違っていた。

国語 (その六)

第二問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「Aアート思考」という言葉をよく耳にするようになりました。これをテーマにした本や記事もいろいろなところで見かけます。しかし、アートの世界に長い間(たぶん生まれたときから)身を置いてきた私には「アート思考」という言葉がしっくりきません。なぜなら、私はアートに特定の思考があると思ったことがないからです。むしろ、アートは常に新しい思考を生み出し続けるものだと思います。仮にある一つの思考があつたとしても、必ずそれを打ち破ろうとする動きが出てきて、別の思考に取って代わられるのです。そうやって一時代を築いた思考があつても、やがてその思考も次の新しい思考にバトンを渡していきます。それがアートの本質的な営みだと思っています。

だから、「アート思考」を私なりに解釈すると次のようになります。

・アート思考Ⅱ問う力

現代の社会に対して「問い」を投げかけること。それが「アート思考」であると。「この^①ギセイの考え方は本当に正しいのか」「今の時代ではこのような表現もあり得るのではないか」「^②どうして私たちはこんな不自由を強いられるのか」などという問いを、ときにはユーモラスに、ときには^③センレンされた手法で、ときには^④トツピョウシもないやり方で、つまり今までにない方法を用いて表現する。それがアートであり、その「問う力」が^⑤イであればあるほどにアートの価値が高まると私は思っています。

(中略)

「問い」を発しないアーティストはいません。アーティストが作品を制作したりパフォーマンスをしたりするとき、何らかのアイデアが必要です。そのアイデアのスタートは、おそらく「問い」の発見にあることが多いと私は思っています。それが社会に問うべき内容であれば、アーティストはそれが一番伝わる形を考えて、作品を制作したりパフォーマンスをしたりします。

ただ、その「問い」には答えがありません。鑑賞者に今まで感じたことがないものを感じさせ、深く考えさせるための「問い」なのです。いかに「^⑥キュウキョクの問い」を作り出すか。そこにこそアートの営みの本質があると、私は思っています。

国語 (その七)

ですから、鑑賞者がアート作品に向き合うとき、「これはどんな問いを投げかけているのか」という視点を持つと、その作品をよく理解できるようになります。「アート思考」と呼ばれるものは、アーティストが持つ「問う力」だと前述しましたが、鑑賞者もそれを意識することで「アート思考」というものが身に付けられると思います。

^Bイノベーションの例として引き合いに出される米国アップル社のiPhoneにも、私は「イ」な「問い」があつたと思っています。この製品が登場する前から、スマートフォンと呼ばれる機器はありました。しかし、iPhoneが登場すると、それまでの携帯電話市場のシェア分布が大きく変わり、発売以降、アップル社が今も多くシェアを占めています。あの小さな機器に多くの人たちの心を揺さぶる何かがあつたのでしょうか。【Ⅰ】それはいったい何なのか。【Ⅱ】便利さや機能性だけではない何かがあつたのです。【Ⅲ】私に言わせれば、それは「問い」のようなものだと思います。【Ⅳ】それは例えば「人が情報をパーソナルに身にまといて発信するようになったら世界はどのようになるのか」という問いだったのかもしれませんが。【Ⅴ】そんな問いがiPhoneにあつたように私は感じます。

今、情報がビジネスや金融と高度に結びつくことで、さまざまな業務や事業が合理化され最適化されています。今の社会は「結果」や「効率」だけを単純に追い求め、「解決」ばかりを提供しようとしていないでしょうか。テレビを見ていても、「問い」を投げかけて深く考えさせる番組はほとんどなく、いたるところで「解」を短時間で見せているだけに思えます。アートのように深く感じさせて考えさせるものが世の中で少なくなっているような気がするのですが、イノベーションを生み出すのは「問題解決」からではなく、「問い」なのではないかと思うのです。

物事を合理的に考えていけば人間の仕事をすべてAIに置き換えられるかもしれませんが、それでも人は最後まで人間にしかできないことを求めるでしょうし、最後に残る仕事があると言えば、それは答えのない「問い」を見つけて、今までになかった表現方法でそれを提示し、人々をうならせるような、言い換えればアートのような仕事だと思います。それが人間らしきなものかもしれないですし、少なくともコンピューターは答えのないものが苦手です。

私は、一般の方が現代において、アートに触れる意味は、そこにあると思っています。アートに触れて「問い」を感じる。その感性はやがて社会の事象や出来事から「問い」を感じ取り、そこから生活や仕事につながるアイデアの創出力を育むようになる。2020年に□を起こした新型コロナウイルスの感染拡大やAI技術の進展からも、私たちは「問い」を感じ取って、今までにない何かを作り出すことができるはずです。

国語 (その八)

病気とは何か。都市とは何か。働くとは何か。生きるとは何か。お金とは何か。家族とは何か。友人とは何か。学校とは何か。コミュニティとは何か。人間とは何か……。アーティストが投げかける問いのようなものを私たちが持てるようになれば、これまでの生活スタイルや仕事のやり方が変わっていくはずです。それを「アート思考」と呼ぶのであれば、ぜひ多くの方にアートを通してアート思考を身に付けてほしいと願います。

(吉井仁実『〈問い〉から始めるアート思考』による)

吉井仁実『〈問い〉から始めるアート思考』光文社新書

※ 問題作成上の都合で、原文の一部に手を加えてあります。

問一 傍線部①～④のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 傍線部A「アート思考」とあるが、これを筆者はどのようなことだと捉えているのか。本文中から二十一字で抜き出して答えなさい。

問三 空欄イに入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 画期的
- ② 主体的
- ③ 原理的
- ④ 倫理的
- ⑤ 普遍的

問四 傍線部B「イノベーション」とあるが、この言葉の意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 産業革命
- ② 経済発展
- ③ 技術革新
- ④ 市場開放
- ⑤ 情報発信

問五 次の一文を挿入する場所として最も適切なものを、後の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

問題解決から始まる何かではなく、今の社会や私たちに対する「問い」から生まれた何かがそこにはあった。

- ① 【I】
- ② 【II】
- ③ 【III】
- ④ 【IV】
- ⑤ 【V】

国語 (その九)

問六 傍線部C「アートに触れる意味」とあるが、アートに触れることには、どのような意味があるか。筆者は述べているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 感性に磨きをかけ人間らしさを発揮することによって、コンピューターを凌駕^{りようが}することができるという意味。
- ② いままでとは異なる思考方法を身につけることによって、功利的な生き方をするこ
とができるという意味。
- ③ 物事を合理的に考えたり、処理したりすることによって、効率的に仕事をこなすこ
とができるという意味。
- ④ 答えが存在していない「問い」に触発されることによって、新しい何かを生み出す
ことができるという意味。
- ⑤ 自分にしかできないことが分かることによって、これまでの生活や仕事を見直すこ
とができるという意味。

問七 空欄口には、「感染症の世界的な大流行」を意味する言葉が入る。カタカナ六字で答
えなさい。

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 鑑賞者が作品に向き合うときは、自らの内面にある「問い」を投げかけながら作品
を理解しなければならない。
- ② アートにとって重要なのは、感性であって思考ではないので、「アート思考」という
言葉は逆説的表現である。
- ③ 常に新しい思考を生み出し続けるのがアートであり、一時代を築いた思考も次の新
しい思考に取って代わられる。
- ④ ビジネスや金融にとって役に立つ情報は、テレビではなくアートから手に入れるこ
とができるのが現代である。
- ⑤ アップル社のスマートフォンはAIを駆使した最先端の機能を搭載しているので、
多くのシェアを占めている。

国語（その十）

第三問 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

^A児童文学の巨匠ミヒヤエル・エンデの傑作『モモ』には、「時間貯蓄銀行」の職員を名乗る「灰色の男たち」が登場して、主人公モモが暮らす町の住人たちから余裕のある時間を掠めとっていきます。銀行に蓄財して利息を得るように、「時間貯蓄銀行」に時間を預ければ、いつか利息つきで時間を引き出せるというのが「灰色の男たち」の言いぶんです。イこれは^B詭弁で、時間を騙し取られたひとたちは生活から余裕が失われていくばかり。大事な自分たちの時間を「灰色の男たち」に渡してしまったことを思い出すこともできません。「灰色の男たち」は彼らを騙して集めた時間を美しい花のかたちで保管しており、その花卉でつくった葉巻を燃やし、その煙を呼吸して生きています。

エンデは『モモ』について「現実世界のメタファーを描いたわけではない」と自分で解説しています。しかし、灰色の男たちと「時間貯蓄銀行」が人々の暮らしから余裕を削りとつていく様子には、エンデの意図や発言を超えて、現代人の生活のパラドックス（矛盾）がうつしとられているかのような強靱な現実感があります。

それにしても、自分の時間を他人に奪われてしまうというのはどうということなのでしょうか。『モモ』の「灰色の男たち」はフィクションの存在でありながら不思議な実感を読者の胸中にもたらしめます。

現代日本では、アルバイト、^①ハケン社員や日雇い労働で、時間給や日給をもらう仕事を経験するひとが少なくありません。そのときの感覚は、まさに時間売り渡しているというものでしょう。いわゆるサラリーマンなら、一時間や一日単位ではなくひと月あたりいくらかという長めのスパンになります。単位が大きくなればなるほど、小口で時間売り渡している感覚は薄まります。時間を売っているのではなく、生活の一部を換金しているような感覚になるかもしれません。サラリーマンであれば勤続年数が積み重なれば積み重なるほど、仕事に人生を^②ツイやしたという感覚になるでしょう。

仕事を自分で作り出しているという感覚があれば、自分の時間や人生の一部を売り渡してしまっているとは思いません。自分にお金を払ってくれるひと、大体は雇用者（経営者）が作り出した仕事を、部下という立場に自分を切り詰めて^③スニコウしているのです。自分の好きなように自分の時間を使うというのは、それだけ余裕があるということです。

読書も、誰かに強制されて読む場合には自分の時間を犠牲にしていると感じられるかもしれませんが、自分の好きな本を自由に読むとき、その時間は自分らしく、誰にも差し出していない時間だといえるでしょう。読書に引き込まれ、没頭してしまうときには、著者に時

国語 (その十一)

間を捧^{たか}げてしまったような、被虐的な快感が湧くこともあります。そういうときはマゾヒスティックな悦楽のために自分の時間をツイヤすという能動的な側面があります。

時間を自分のために過ごしているのか、それとも、自分のものであるはずの時間を誰かに売り渡しているのか。ひとの一生と同じで、時間は、ひとたび過ぎ去ってしまったとき、繰り返されることのないものです。生活のためにやむなく時間売り渡してしまったとき、売り払った時間は、支払われるはずの対価に見合うことはありません。自分の時間を大切にするのであれば、誰も自分の時間を売り払いたくはないはずです。

どうすれば、自分の時間を誰かに売り払うことなく、自分の時間として味わうことができるのでしょうか。これは実はなかなか難しい問題です。

よく「時間は誰にでも平等に与えられている」と言います。しかしそれは本当でしょうか。余命宣告をされた病人と、溢^{あふ}れんばかりの富と健康を謳^{おう}歌しているひととが、おなじひと月、おなじ一日、おなじ一時間を生きていると言えるのでしょうか。一年以内に死んでしまいかもしれないひとが、生きられる日々を指折り生きると、死ぬことなど思いも寄らない幸福なひとが生きる日々が平等だというのは、にわかには信じがたい考え方です。

時間には、時計の進みかたのような客観的で物理的なものと、何時間とか何分と数値化して捉えるのが難しい主観的なものとがあります。読書に没頭してしまい、気がついたら夜が明けている、そんなときの時間の進みかたが主観的な時間です。実は、誰にでも平等に与えられているのは客観的な時間の方です。その時間を生きるひとの状態や心理が問題になるのは主観的な時間で、こちらは数値化されていないので平等かどうかを検討することもできません。

□「時間は平等に与えられている」と言われるときに問題とされているのは、傍^{はた}目に、つまり客観的には同じ数値ではかられる平等な時間（一年、一日、一時間…）をそれぞれがどう生きるかということ——主観的な時間をどう生きるのかということです。

これは言い換えれば「自分」とどう向き合うかという話でもあります。時間給であれ日給であれ、月給であれ④ネンポウであれ、売りに出すときには客観的な時間で量り売りされる客観的な時間を、主観的なものとしてどう生きるのか、ということです。

『モモ』の「灰色の男たち」は、複雑な数式を描いて町の人々を甲、「余分な時間」として彼らの余裕を奪い去ります。『読書について』で哲学者ショーペンハウアーは、読書とは「他人が書いたものを読むことで、自分の頭で考える代わりに他人の頭で考えること」だと説きました。自分の頭で考えないならば、いくら他人の頭で考えたところで、それは自分の頭で考えるのを避けていることと同じだ、というのです。

国語 (その十二)

エンデは『モモ』で、人々の時間が「余分なもの」として数値化され搾取されやすいものだということを描きました。ショーペンハウアーは「自分の頭で考えること」を「他人の頭で考えること」よりも重要なことだと述べています。この「余分な時間」や「自分の頭」というのは、要するに主観的な時間のことです。エンデもショーペンハウアーも、この「自分」を尊重することを読者に語ろうとしていたのではないのでしょうか。

(永田希『再読だけが創造的な読書術である』による)

※ 問題作成上の都合で、原文の一部に手を加えてあります。

問一 傍線部①～④のカタカナを漢字で書きなさい。

問二 傍線部A「児童文学の巨匠ミヒヤエル・エンデの傑作『モモ』とあるが、エンデは『モモ』で何を描いたと筆者は考えているのか。本文中から三十六字で抜き出して答えなさい。

問三 空欄イ、ロに入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- ① さらに ② まして ③ むしろ ④ したがって ⑤ しかし

問四 傍線部B「詭弁」とあるが、この言葉の意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 根拠もないのに絶対的なものだと思んが信じている論
② 対立や矛盾を克服することで高次へと発展させる論
③ 他の事柄にかこつけて社会や人物を遠回しに批判する論
④ 道理に合わないことをいかにももつとらしくこじつける論
⑤ 現実からあまりにかけ離れていて実現が難しそうな論

国語 (その十三)

問五 傍線部C「時間は誰にでも平等に与えられている」とあるが、筆者は時間をどのように捉えているのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 時間の中には数値化できないあいまいなものがあり、そのような時間を排して、平等に時間は与えられるべきである。
- ② 時間は時計によって計れるものと計れないものがあり、平等に与えられている前者のみを使って人々は生活している。
- ③ 客観的な時間は絶対的なもので、主観的な時間は相対的なものであり、この二つの時間を比較することなどできない。
- ④ 時間は客観的な時間と主観的な時間の二つの時間があるが、主観的な時間の方は誰にでも与えられるものではない。
- ⑤ 客観的な時間は平等に与えられていても、その時間をどのように生きるのかによって時間は均質なものではなくなる。

問六 傍線部D「にわかに」とあるが、この言葉の対義語として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① いたずらに ② つねに ③ おもむろに
- ④ しきりに ⑤ またたく間に

問七 空欄甲に入れるのに最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① ヤリダマに挙げ ② ケムに巻き ③ シガにもかけず
- ④ キロに立たせ ⑤ ナラクの底に沈め

国語 (その十四)

問八 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 仕事や読書をすることは、人間にとって大事な時間を無駄に過ごしているとしか考
えることができない営みである。
- ② ショーペンハウアーの時代は、悪質な本ばかりが流通していたため、本を読まずに
自分の頭で考えろと彼は唱えた。
- ③ 生活から余裕が失われがちな現代人にとり、自分の頭を使って考え、自分と向き合
う時間を持つことが大切である。
- ④ 読書に没頭してしまい、気がついたら夜が明けていたということもあるが、そこに
は喜びはなく虚^{むな}しさだけがある。
- ⑤ 生活のためにやむなく時間を売り渡してしまっても、それに見合うだけの対価を手
にすることができれば諦めもつく。